

[043] ICER Newsletter

<https://hdl.handle.net/2324/2553408>

出版情報 : ICER Newsletter. 43, pp.1-, 2020-02. 九州大学附属図書館付設教材開発センター
バージョン :
権利関係 :



九州大学附属図書館付設教材開発センターだより

ICER Newsletter

ICTのふくをかんじるAXIES ~ 大学ICT推進協議会2019年度年次大会参加記 ~

2019年12月12日から14日にかけて福岡国際会議場で開催された大学ICT推進協議会2019年度年次大会にブース出展を行い、教材開発センターの活動を紹介しました。ブースでは、2019年度夏に開講したMOOC「豪雨災害とその対策—平成29年7月九州北部豪雨災害を例に一」をはじめとして、教材開発センターでこれまで開発してきた電子教材、映像教材を多くの方に実際にご覧いただきました。当センターで開発した解剖学シリアスゲームや細菌学シリアスゲームを実際にプレイしていただいた方々には、専門知識が必須なクイズに苦戦しながらも、教材開発におけるゲーミフィケーションの効用を楽しみながら実感して頂けたようでした。

また、全大会におけるEDUCAUSEの会長兼CEOのJohn O'Brien 博士、東京大学の萩谷昌巳先生による基調講演や、本センターの岡田教授が座長を務めた「ITベンチマーキング調査事業中間報告」など様々なセッションを聴講し、大学を主とした教育環境におけるICT導入の現在の潮流を知ることができました。これらの講演からは、edXやCourseraによってMOOCが世界的に台頭した2012年から早7年が経過し、MOOCをはじめとしたオープン教材の開発は、一過性のブームを脱し再考を要する局面に達した観が見受けられました。このような状況下でのより良い教材とは何かを問い直しながら、教材開発に取り組んでいきたいと考えています。



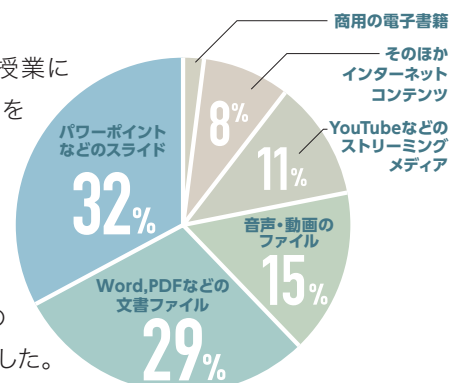
「電子教材開発に係るニーズ」 ~ 調査結果報告 ~

本センターでは毎年2回、ICTによる教育支援を必要とする案件を調査するため、「電子教材開発に係るニーズ調査」を実施しております。

回答期間は2019年11月1日(金)~29日(金)で、教職員への回答協力を部局へのメール依頼により行いました。多くのご回答、ご協力を頂きありがとうございました。

有効回答数は84名、また、実名で当センターからの連絡を希望された教員の方は12名でした。順次、対面でのお打合せを行い、可能な範囲で支援させていただく予定です。

調査結果からは、対面の授業においてICTを活用した教材を使用している教員数は70名、うち、最も使用頻度の高いものはパワーポイントなどのスライドであるのに対し、電子書籍や、Youtubeなどの活用率は低いことが示されました。



次回、6月に実施予定の調査につきましてもご協力をよろしくお願いいたします。

他の回答結果につきましては、当センターのサイトに公開しております。▶ https://www.icer.kyushu-u.ac.jp/topics_20200204

講習会開催報告

電子教材開発者向け講習会

2019年12月26日13:30~15:00に伊都キャンパス中央図書館4階講習会スペースにおいて、教材開発センターの専任教員が講師となり、全学FD「電子教材開発者向け講習会」を開催しました。教材開発センターの活動を広く周知することにより、ICT活用教育の普及啓発を図るため本講習会を実施しました。主な内容は、教材開発センターの主要な活動である「講義等ビデオ教材の撮影・編集・公開」と「3次元CG等高度ICT活用電子副教材の開発」です。学内から合計9名(教員7名、学生2名)の参加者がありました。質疑応答では、ビデオ教材制作や電子副教材開発に関して活発な議論が行われ、盛況裡に終了しました。

電子教材著作権講習会

2019年12月26日10:30~12:00に伊都キャンパス中央図書館4階講習会スペース、17:30~19:00に馬出キャンパス総合研究棟1階104セミナー室において、教材開発センター長が講師となり、全学FD「電子教材著作権講習会」をそれぞれ開催しました。電子教材開発における他人の著作物の利用に関するガイドライン等を周知することにより、ICT活用教育の普及啓発を図るため本講習会を実施しました。合計9名の学内教職員の参加者がありました。質疑応答では、他人の著作物の教育利用に関して活発な議論が行われました。



活動
報告

先生方の授業をビデオで撮影します！

教材開発センターでは、九大における教材制作の一環として、先生方の授業風景をビデオで撮影することをサポートしています。過去の活用事例としては、学生や一般視聴者に向けたeラーニング、欠席者向けの課題・復習・補講用、反転授業などのアクティブラーニング、実験や実習などの記録、最終講義や研究紹介などに対応してまいりました。

公開も、九大Youtubeチャンネル(一般公開・限定公開)、九州大学Moodle(学内限定公開)、そのほか希望の方法で公開が可能です。さらに活用してもらうべくチラシを用意しましたので、ご興味のある方はぜひこの機会にビデオ撮影を検討してみてください。



PDFはこちらです。▶ <https://www.icer.kyushu-u.ac.jp/flows>

